

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	1	⑪ ⑬	海岸（高潮）事業	整備課	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行う。	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	防護面積 74ha (R3年度)	継続	192,000	3,000	減額	5,650	順調	本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、国の補正予算も活用しつつ、予算の確保に努めている。 高潮災害の予防対策として、引き続き護岸整備を進め、早期完成を目指す。	順調	過去に高潮の被害を受けている地区である。市民や立地企業の安全・安心を確保するためにも、本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、予算を確保し、早期完成を目指す。	
							実績	—													
							達成率	—													
							目標	14 ha													防護面積 14ha (R1年度)
							実績	14 ha													
							達成率	100.0 %													
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	2	⑨	国直轄事業負担金（耐震強化岸壁整備）	計画課	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を整備する。	臨海部防災拠点構成する耐震強化岸壁の整備（西海岸地区）	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	耐震強化岸壁の整備 (R3年度)	継続	0	0	その他	2,900	遅れ	事業主体である国は鋭意予算要求を行っている。市としては、国に対して事業の早期着手を要望しているところであり、今後も更に国との連携を密にし、事業の進捗を図っていく。	遅れ	本市では耐震強化岸壁を5箇所整備する計画である。現在、砂津地区、新門司南地区の整備が完了している。残る3箇所のうち、西海岸地区、ひびきコンテナターミナルにおいては、国が事業主体となることから、早期着手の要望を引き続き行い、国との連携を密にし、事業の進捗を図る。	
							実績	—													
							達成率	—													
III-1-(2)-③ 市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	3	⑩	<新>海辺の憩い・にぎわいTRIAL PROJECT	計画課	これまで整備した海辺空間を活用し、市民の憩いや安らぎ、地域のにぎわい創出を図る。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	目標			前年度比増	更なる市民満足度の増加 (52.1%以上) (R5年度)	—	—	2,000	—	9,300	—	「市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合」の増加を目指し、これまで整備した水際線を活用した実効性のある海辺づくりを推進する。	やや遅れ	これまで整備した水際線を、市民の憩いや安らぎ、にぎわい等の空間として提供できるように努め、市民に親しまれる水際線を目指す。	
							実績	52.1% (R1年度)													
							達成率														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
IV-1-(3)-① 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	4	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力発電拠点化推進事業	エネルギー産業拠点化推進課	<p>港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成22年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。</p> <p>そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。</p>	風力発電関連施設の立地	目標	洋上ウインドファーム事業の着実な実施に向けた協議								順調	<p>風力発電関連産業の総合拠点形成に向けては、まず、響灘洋上ウインドファーム事業と基地港湾整備を着実に進め、西日本地域のウインドファーム事業を確実に取り込むことで、基地港湾の将来に向けた継続的な利用、関連産業の定着を図る必要がある。</p> <p>また、産業拠点化を進めることで、更なる港湾の活性化や雇用促進を図ることができるため、積極的に取り組んでいく。</p> <p>企業誘致及び埋立地整備事業については、戦略的な企業立地活動を継続すると共に、残りの分譲地が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。</p>		
							実績	実施											
							達成率	—											
						風力発電関連産業の新規雇用（累計）	目標	110 人											
							実績	10 人											
							達成率	9.1 %											
						響灘地区総合拠点の産業用地利用率	目標		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし									
							実績	30% (R1年度)				80% (R6年度)							
							達成率												
						響灘地区総合拠点利用ファーム数（予定含む）	目標		単年度目標設定なし	単年度目標設定なし									
							実績	1件 (R1年度)				5案件 (R6年度)							
							達成率												
								継続	1,262,200	1,096,650	減額	119,500	順調						

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
	5	⑦ ⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	計画課 整備課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計) ※中期目標改訂	4件 (H26年度)	目標 37 件	実績 41 件	達成率 110.8 %	41 件	42 件	1件増 (毎年度)	拡大	229,603	439,508	増額	22,700	順調	外部環境に成果が左右されるが、本市の充実した港湾インフラを必要とする企業に絞り込んだ効率のよい企業立地活動を行う。 また、マリナクロス新門司については令和3年度に新規フェリー航路就航が決定しており、フェリー関連会社の事業用地として岸壁後背地の整備が急がれる。響灘地区については、企業の土地需要に応えるため、未利用の国有地の有効活用を進める。 【中期目標の変更内容】 近年、土地の売却が進み当課所管の売却可能な分譲地が残りわずかとなったため。		
IV-4-(3)-① 国内外からの観光の推進	6	⑧	クルーズ船の誘致	クルーズ・交流課	コンベンションへの出展や、代理店や船社への情報提供による、国内外のクルーズ船の寄港を促進する。また、クルーズ船寄港時にはおもてなしイベント等を展開する。	クルーズ船の寄港数	年間寄港回数：12回 (H28年度)	目標 45 回	実績 20 回	達成率 44.4 %	45回 (R7年度)	45 回	40 回	継続	140,000	16,700	減額	28,450	やや遅れ	船社や関係機関と協力して新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全な寄港受入を行うとともに、クルーズ市場の動向を見極めながら、船社や旅行会社への営業活動を行い、クルーズ船の寄港誘致を図る。	やや遅れ	感染症対策をはじめとした各種安全対策を実施し、クルーズ船の寄港受入にあたるとともに、国内外の状況を注視しつつ、寄港誘致を推進していく。
IV-4-(3)-② にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充	7	⑧	港のにぎわい推進	クルーズ・交流課	広く市民に港や海に親んでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、北九州港内で開催される各種イベントを実施する。	イベント参加者の満足度 ※中期目標改訂	80%以上 (H26年度)	目標 90 %以上	実績 100 %	達成率 111.1 %	90 %以上	90 %以上	イベント参加者の満足度90%	継続	—	32,724	その他	8,650	順調	令和3年度の関門海峡花火大会時期である8月は、東京オリンピック・パラリンピック開催時期と重なり、警備員確保の費用が増額することが予想されるため、安全・安心な大会となるよう支援を行う。また、その他のみなどオアシス推進事業等と併せて、イベント参加者の満足度等を把握する。 令和3年度で既存の2事業と併せて「港のにぎわい推進」事業としたため、事業費の増減は「その他」とした。 【中期目標の変更内容】 具体的な数値目標を設定した。	順調	広く市民に港や海に親んでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、新型コロナウイルス感染症への対策を実施しながら、引き続き、北九州港内におけるイベントを開催し、北九州港の周知・PRを行い、「みなと」を核としたまちづくりを促進する。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
V-1-(3)-2 産業拠点の整備	8	⑦ ⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	計画課 整備課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計) ※中期目標改訂	4件 (H26年度)	目標 37 件	実績 41 件	42 件	1件増 (毎年度)	拡大	229,603	439,508	増額	22,700	順調	外部環境に成果が左右されるが、本市の充実した港湾インフラを必要とする企業に絞り込んだ効率のよい企業立地活動を行う。 また、マリナクロス新門司については令和3年度に新規フェリー航路就航が決定しており、フェリー関連会社の事業用地として岸壁後背地の整備が急がれる。響灘地区については、企業の土地需要に応えるため、未利用の国有地の有効活用を進める。 【中期目標の変更内容】 近年、土地の売却が進み当該課所管の売却可能な分譲地が残りわずかとなったため。	順調	戦略的な企業立地活動を継続すると共に、残りの分譲地が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。
V-1-(3)-3 物流拠点の整備	9	⑧ ⑨ ⑪	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して、空港機能強化のための活動を行っている。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため、助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進、空港機能強化等を行う。	航空貨物取扱量	—	目標 28,000 t	実績 9,255 t	30,000 t	30,000t (R3年度)	拡大	325,100	315,900	維持	19,200	遅れ	航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。 航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。 北九州港の施設整備については、港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、引き続き港湾施設の機能の維持・強化を行う。また、老朽化が進む港湾施設について、引き続き健全な状態を維持し、北九州港の利便性を向上させるため、施設点検を着実に実行するとともに、適切な補修を行う取組を拡大させていく。 また、港湾の更なる発展を目指すとともに、港を取り巻く情勢も大きく変化しているため、新しい港湾計画を策定し、港湾の更なる発展を目指す。	やや遅れ	航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。
	10	⑨ ⑪	港湾施設整備事業（岸壁、物揚場、道路、橋梁等整備）	整備課	岸壁や道路等の老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図る。	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	継続	198,190	569,190	増額	5,150	やや遅れ	老朽化した施設の改良を経済的かつ効率的に図るため、緊急性の高い施設から優先順位をつけて予算要求し整備していく。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
11	⑧ ⑨ ⑩ ⑪		北九州港湾 計画改訂事業	計画 課	港湾の更なる発展を目指すとともに、港を取り巻く情勢も大きく変化しているため、新しい港湾計画を策定し、港湾の更なる発展を目指す。	港湾計画の改訂	—	目標			単年度目標 設定なし	令和5年 度での 港湾計 画改訂	—	17,000	70,000	増額	48,000	—	港湾の更なる発展を目指すとともに、港を取り巻く情勢も大きく変化しているため、新しい港湾計画を策定し、港湾の更なる発展を目指す。
								実績											
								達成率											
12	⑨ ⑩		競争力のある 港づくり関連 事業（維持管 理等）	港営 課 整備 課	老朽化が進む北九州港の港湾施設について、維持管理を効果的かつ効率的に行うことで、物流基盤の機能を維持し、北九州港の競争力確保を図る。	港湾施設の安全性確保及び利便性の維持・向上	—	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施 設の安 全性確 保及び 利便性 の維持・向 上	継続	374,449	578,024	増額	115,075	順調	老朽化した港湾施設について、点検結果、利用状況を踏まえて、緊急度の高い施設から補修を行うことにより、港湾施設の安全性の確保を図る。
								実績	—										
								達成率	—										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)					
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標				
V-1- (4)-② 再生可能エネルギー・ 基幹エネルギーの 創出拠点の形成	13	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力 発電拠点化推 進事業	エネ ルギ 産業 拠点 化推 進課	<p>港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成22年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。</p> <p>そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。</p>	風力発電関連施設の立地	目標																	
							実績	—	実施															
							達成率	—																
						風力発電関連産業の新規雇用 (累計)	目標		110 人															
							実績	—	10 人															
							達成率		9.1 %															
						響灘地区総合拠点の産業用地利用率	目標				単年度目標 設定なし		単年度目標 設定なし											
							実績	30% (R1年度)																
							達成率																	
						響灘地区総合拠点利用ファーム数 (予定含む)	目標				単年度目標 設定なし		単年度目標 設定なし											
							実績	1件 (R1年度)																
							達成率																	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
V-2-(1)-① 北九州空港の 機能拡充	14	⑧ ⑨ ⑪	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して、空港機能強化のための活動を行っている。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため、助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進、空港機能強化等を行う。	航空貨物取扱量	目標	28,000 t	30,000 t	30,000 t	30,000t (R3年度)	拡大	325,100	315,900	維持	19,200	遅れ	航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。 旅客については、新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 空港へのアクセスについては、新型コロナウイルスの影響により、航空便の運航が不安定な状況にあるが、引き続き確実なバス運行に努める。 空港の機能強化については、増加する国際貨物に対応するため、物流拠点としての機能強化に向けた整備を行う。また、物流拠点空港の実現に向け、空港島の将来計画(案)の検討を行う。	
						実績	9,255 t												
達成率	33.1 %																		
15	⑧ ⑪	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大 ※中期目標改訂	目標	6 路線	7 路線	3 路線	3路線 (R3年度)	継続	374,754	49,660	減額	88,950	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 【中期目標の変更内容】 新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている現状を鑑み、路線数を変更した。		
					実績	6 路線													
達成率	100.0 %																		
16	⑪	北九州空港アクセス推進事業	空港企画課	北九州空港の利用促進のため、エアポートバスの安定的な運行確保等、空港アクセス利便性の維持・向上を図る。	国内定期路線の維持・拡大 ※中期目標改訂	目標	5 路線	4 路線	3 路線	3路線 (R3年度)	継続	236,000	195,500	減額	19,200	やや遅れ	新型コロナウイルスの影響により、航空便の運航が不安定な状況にあるが、引き続き確実なバス運行に努める。 【中期目標の変更内容】 第2期総合戦略の数値目標に合わせて変更するもの。		
					実績	3 路線													
達成率	60.0 %																		
					北九州空港利用者数の増 ※中期目標改訂	目標	単年度目標設定なし	200 万人	策定中	策定中	継続	236,000	195,500	減額	19,200	やや遅れ	新型コロナウイルスの影響により、航空便の運航が不安定な状況にあるが、引き続き確実なバス運行に努める。 【中期目標の変更内容】 第2期総合戦略の数値目標に合わせて変更するもの。		
					実績	1,579,108 人													
					達成率	—													

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
17	⑩		北九州空港 機能強化推進 事業	空港 企画 課	北九州空港の更 なる活性化のため、空港機能の強 化に向けた調査・ 検討等を実施す る。	北九州空港利用 者数の増 ※中期目標改訂	—	目標 200 万 人	実績 —	達成率 —	策定中	策定中	—	37,000	231,000	増額	19,200	—	増加する国際貨物に対応す るため、物流拠点としての機 能強化に向けた整備を行う。 また、物流拠点空港の実現に 向け、空港島の将来計画 (案)の検討を行う。 【指標追加の理由】 当該事業の目的に合わせて 指標を追加。 【中期目標の変更内容】 第2期総合戦略の数値目標 に合わせて変更するもの。			
V-2- (1)-② 港湾の 国際競 争力の 強化	18	⑧ ⑨ ⑩	北九州港集貨 航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動き や物流事業につ いて、企業訪問 などにより情報 収集を行うと ともに、セミナー の開催や様 々な媒体を利用 してのPR及び官 民一体となった ポートセールス 活動などを通 じて、北九州 港への集貨・航 路誘致を行う。	北九州港海上出 入貨物取扱量	9,998万 t (H23年)	目標 10,900 万 t	実績 9,860 万 t	達成率 90.5 %	前年比増加	前年比増加	10,900 万t (R6年)	継続	187,872	164,464	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推 進するため、官民一体とな ったポートセールス活動を通 じて北九州港の利用促進を図 る。 自動車物流拠点形成に向け た事業者の誘致を継続すると ともに、アジア地域との国際 RORO航路の誘致を推進する。 本港の競争力強化につなげ るため、コンテナヤード等の 整備を行うとともに、老朽化 が著しいコンテナクレーンの 更新を行う。 また、新しい港湾計画を策 定し、港湾の更なる発展を目 指す。	順調	
	19	⑧ ⑨ ⑩	北九州港RORO 航路誘致事業	物流 振興 課	完成自動車の輸 出や自動車部品 輸入等のシーム レス物流に必要 な国際RORO航 路を誘致すると ともに、更なる 内航RORO航路 の充実を図るこ とにより、臨海 部における自動 車関連産業等の 物流拠点化の 促進及び北九州 港の取扱量拡大 を図る。	RORO航路数	4航路 (R1年)	目標 7 航 路	実績 4 航 路	達成率 —	7 航 路	7 航 路	8航路 (R6年)	継続	15,612	12,625	減額	4,825	順調	自動車物流拠点の形成に向 け、中古車輸出に対応する航 路誘致を継続するとともに、 アジア地域との国際RORO航 路の誘致を推進する。国内R ORO航路の誘致を促進すること で更なる物流拠点化を図る。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
	20	⑨ ⑪	太刀浦埠頭用 地整備事業	整備課 港営課	太刀浦コンテナ ターミナル内の舗 装の損傷が著しい 箇所について補修 を行うことで、荷 役作業の安全性確 保と効率化を図 る。	荷役作業の安全 性確保と効率化	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	コンテ ナヤ ード 等の 整備 (R5年 度)	縮小	370,000	81,000	減額	3,650	順調	荷役作業の安全確保と効率 化を図り、本港の競争力につ なげるため、コンテナヤード 等の整備を行う。 令和3年度は引き続き舗装 の損傷が著しく、利用者から の整備の要望が高い第2コン テナターミナルの整備を行 う。		
	21	⑧ ⑬	太刀浦第2コ ンテナターミ ナルコンテナ クレーン更新 事業	港営課	耐用年数を超 え、老朽化、劣化 が顕著なため、安 全、安定した設備 を提供することを 目的とし、コンテ ナクレーンの更新 を行う。また利用 促進を図るため、 クレーンの大型化 も行うもの。	クレーンの更新 基数	0基	目標 —	—	1基目着手	2基目完 成 (R6年 度)	—	18,000	499,200	増額	12,300	—	太刀浦第2コンテナターミ ナルは、昭和62年に供用開始 し、更新対象のクレーンも設 置から耐用年数を大幅に超 え、老朽化が著しい。このた め、安全かつ安定した設備を 提供することを目的とし、ク レーン3基の更新を行う。さ らに近年のコンテナ船大型化 を踏まえ、コンテナターミ ナルの利用促進を図るため、ク レーンの大型化も行うもの。 R3年度は1基目の更新工事 に着手する。		
	22	⑧ ⑨ ⑪	北九州港湾 計画改訂事業	計画課	港湾の更なる発 展を目指すとも に、港を取り巻く 情勢も大きく変 化しているため、 新しい港湾計画 を策定し、港湾 の更なる発展を 目指す。	港湾計画の改訂	—	目標 —	—	単年度目標 設定なし	令和5年 度での 港湾計 画改訂	—	17,000	70,000	増額	48,000	—	港湾の更なる発展を目指す とともに、港を取り巻く情勢 も大きく変化しているため、 新しい港湾計画を策定し、港 湾の更なる発展を目指す。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
V-2- (1)-③ 環境配慮型物流の推進	23	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨 航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万t (H23年)	目標	10,900 万t	前年比増加	前年比増加	10,900 万t (R6年)	継続	187,872	164,464	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、モーダルシフトを推進する。	順調	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
						実績	9,860 万t														
						達成率	90.5 %														
V-3- (2)-① 都市基盤・施設の有効活用	24	⑧ ⑪	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大 ※中期目標改訂	—	目標	6 路線	7 路線	3 路線	3路線 (R3年度)	継続	374,754	49,660	減額	88,950	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 【中期目標の変更内容】 新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている現状を鑑み、路線数を変更したため。
						実績	6 路線														
						達成率	100.0 %														
	国内定期路線の維持・拡大 ※中期目標改訂	—	目標	5 路線	4 路線	3 路線	3路線 (R3年度)	継続	374,754	49,660	減額	88,950	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 海上貨物については、引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。					
			実績	3 路線																	
			達成率	60.0 %																	
25	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨 航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万t (H23年)	目標	10,900 万t	前年比増加	前年比増加	10,900 万t (R6年)	継続	187,872	164,464	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、充実した都市基盤を活用し更なる物流拠点を目指す。	順調	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。	
					実績	9,860 万t															
					達成率	90.5 %															

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-3- (1)-② 適正な 廃棄物 の処理	26	⑨ ⑪ ⑫	響灘東地区処 分場整備事業	整備 課	北九州港内の航 路・泊地の整備及 び維持から発生す る浚渫土砂、市民 生活や市内中小企 業の産業活動から 発生する廃棄物等 を最終的に処分す る海面処分場（響 灘東地区処分場） を整備する。	廃棄物処分場の 確保	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	廃棄物 の受入 開始 (R5年 度)	継続	1,368,000	503,000	減額	39,500	順調	事業の重要性を国に伝え、 国の補正予算も活用しつつ、 予算の確保に努めている。 引き続き目標年次までの完 成を目指し、計画的な事業の 進捗を図る。	順調	市民生活に不可欠な廃棄物 処分場の整備事業であり、確 実に事業を進めていく。
							実績	—												
							達成率	—												
						土砂処分場の確 保	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	浚渫土 砂の受 入開始 (R5年 度)									
							実績	—												
							達成率	—												

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
VII-2-(2)-① 充実した物流 基盤を活用した物流 振興	27	⑩	<新>海辺の 憩い・にぎわ いTRIAL PROJECT	計画 課	これまで整備した海辺空間を活用し、市民の憩いや安らぎ、地域のにぎわい創出を図る。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	52.1% (R1年度)	目標			前年度比増	更なる市民満足度の増加(52.1%以上)(R5年度)	—	—	2,000	—	9,300	—	「市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合」の増加を目指し、これまで整備した水際線を活用した実効性のある海辺づくりを推進する。			
	28	⑧ ⑨ ⑪	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港 企画 課	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っている。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進、空港機能強化等を行う。	航空貨物取扱量	—	目標	28,000 t	30,000 t	30,000 t	30,000t (R3年度)	拡大	325,100	315,900	維持	19,200	遅れ	航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。	順調	海辺の憩い・にぎわいTRIAL PROJECTについては、これまで整備した水際線を、市民の憩いや安らぎ、にぎわい等の空間として提供できるように努め、市民に親しまれる水際線を目指す。 航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、貨物拠点化を積極的に進めていく。 北九州港については、引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組みすることで、更なる北九州港の利用促進を図る。	
	29	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万t (H23年)	目標	10,900 万t	前年比増加	前年比増加	10,900 万t (R6年)	継続	187,872	164,464	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、充実した都市基盤を活用し更なる物流拠点を目指す。			
VII-3-(2)-③ 九州地域の空港の連携	30	⑧ ⑪	【施策評価のみ】九州地域の空港の連携	空港 企画 課	【施策の内容】北九州空港の集客力と来訪者の回遊性を向上させるため、九州地域の各空港との連携強化を図る。	—	—	目標	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	順調	他空港とは競争関係にあり連携するにはハードルがあるが、引き続き近隣の他空港と連携して、北九州空港の利用促進活動を行っていく。